あったかいがいいね

シャローム横浜通信 １月号

こどもたちの笑顔

何かとあわただしい季節になってまいりました。街角にはクリスマスの装飾があふれておりますが、シャローム横浜でも館内や中庭にクリスマスの装飾が施され、夜にはクリスマスツリーが夜空を彩っています。

先日、当法人の事業所であるベーテルの夢職員の計らいで、沖縄県の県立糸満青少年の家にて開催された「第13回沖縄県高校・大学・地域連携福祉研究会」に参加する機会が与えられました。ここでは、沖縄県内で唯一の介護福祉士養成校である県立真和志高等学校みらい福祉科の生徒が参加しており、企業ブースの会場で生徒の方々にシャローム横浜の紹介をすることができました。学生たちは今後の福祉を担う人材として希望となる存在ですので、今後も学校等と関係を築きながらアプローチを続けてまいりたいと思っています。

また、久しぶりに障がい児通所支援「ベーテルの夢」「ベーテルの夢Ⅱ」にも立ち寄ることができ、職員の懸命な働きと子供たちの成長を見ることができました。

このベーテルの夢は、今年の８月１日から２度にわたって沖縄を直撃した台風６号により、床上約15㎝の浸水被害に遭いました。そのため、被害のあった場所での事業活動ができなくなりましたが、地域の皆様の協力により、新しい場所が見つけられたこと、沖縄県や浦添市などの行政機関が迅速に認可をしてくださり、約一か月で新しい場所での活動を再開することができました。また、ご家族や地域の皆様、当法人の母体であるセブンスデーアドベンチスト教団や沖縄教区、教会員の皆様などが訪問してくださり、職員と共に祈り、差し入れや手伝い、お声掛けしてくださるなど、多くの皆様に勇気と力をいただきました。

訪問時に子供たちは新しい場所で地域の皆様に支えられながら、満面の笑顔で過ごしていました。今後も沖縄の障がいを抱えている子供たちの居場所として活動できますことに感謝申し上げますとともに、子供たちの笑顔が守られますよう見守っていただければ幸いです。

【するとイエスは幼な子らを呼び寄せて言われた、「幼な子らをわたしのところに来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのようなものの国である。」】

ルカによる福音書18章16節

皆様の健康が守られ、新しい年が平和に満たされますようお祈りいたします。

施設長　髙原 信夫

楽しい催し物

11 月の前半にお菓子レクリエーションを行いました。皆様お煎餅などの塩味の濃いお菓子を好まれている様子でした。アイスも人気があります。またやって欲しい！次はいつやるの？などのお声をいただきました。

後半にはコロナウイルス感染対応となってしまいました。早期終息するよう職員一同努めてまいります。今後もご利用者に楽しんでいただけるレクリエーションを実施したいと思っています。

４階副主任　神宮 広大

第 281 号
令和 5 年 12 月 15 日発行
（毎月 1 回 15 日発行）

責任者:施設長 髙原信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集委員
小林・荒金・石橋
☎045-922-7333

https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/

ハウスキーピングの日々の仕事と感謝の声

ハウスキーピングは、平日は３～４名、土日は２名で勤務しています。１階から４階までの通路やレストラン、各階のトイレや洗面所、居室の中を清掃しています。その他には、ショートステイのシーツ交換、ひまわりデイサービスの清掃、厨房の床清掃なども行っています。

３階、４階で清掃している時にはご利用者から「いつもありがとう」「キレイになったねぇ」とよく声をかけていただき、とても励みになっています。これからもより一層頑張りたいと思います。

ハウスキーピング副主任　竹渕 順子

食事サービスを紹介します

私たちは横浜市食事サービスの指定を受けて、月曜日から金曜日に地域の皆様のご自宅に夕食のお弁当をお届けしております。配達場所は旭区全域と瀬谷区・緑区・保土ヶ谷区の一部地域です。また献立表をホームページに掲載しておりますので、ご興味のある方はご覧ください。

日々のお弁当とは別に少人数などの集まりのお弁当のご依頼も受け付けております。写真は菜食弁当の仕出し弁当です。今後も皆様に喜ばれるお弁当作りに日々精進してまいります。

食事サービス主任　遠藤 洋子

兄弟は悩みの時のために生まれる

第 189 回　チャプレン　上前 至

私は、今、RKK という主に横浜国立大学に留学してきている学生を支援している NPO に参加し日本語を教えている。そこでこのあいだ、日本語スピーチ大会があり、８名の留学生の発表を聞いた。聴きながらやはり、彼らを通してしか見えない日本の姿があることに改めて気づかされた。

パラグアイからきているある女性の発表はとても印象深かった。日本に去年の４月に来たという。彼女はパラグアイのアスンシオン国立大学を卒業し、これから横浜国立大学で人文社会領域の勉強をし、自分の国のコミュニティをよくしていくことに貢献していきたいというのである。来て驚いた第一の事、それは日本語だけで言葉が通じるという事である。パラグアイは違うらしい。３ヶ国語を話さなければならない。スペイン語、英語、そしてワラニー語（先住民語）である。そしてパラグアイは日本とは 12 時間の時差があり、国土は日本より少し大きいが人口は７００万で、この神奈川県より少ないという。そして一番驚いたことは通りにゴミ箱は少ないのに町がきれいだという事である。お寺や神社もきれいでとても感銘したという。そして電車も時間通りに運行されている事が信じられない。向こうでは 30 分くらい遅れるのが普通だからだ。なにより女性が安心・安全で暮らせるという事が一番良いという。「日本に来て本当に私は幸せです」という。

これからの日本での彼女の歩みが本当にそうあってほしいと願いつつ、悩める時には友の一人として助けになれればとも思っている。「友はいずれの時にも愛する、兄弟は悩みの時のために生まれる。」箴言 17 章 17 節